

水源地域の現状について

1. 鳴子ダムの概要
2. 鳴子ダムの沿革
3. 鳴子ダムの役割
4. 水源地域の鳴子町の概要
5. 鳴子ダム周辺のカルデラ地形と河川の状況
6. 鳴子町や水源地域・江合川流域地域の人口
7. 鳴子町の産業
8. 鳴子町の観光資源
9. 鳴子町と他市町との関係など
10. 鳴子ダム水源地域周辺のすぐれた自然・植物
11. 鳴子ダム水源地域周辺の貴重な動物
12. 鳴子町の最近のうごきや地域活動
13. 鳴子ダム水源地域のさまざまな資源
14. 鳴子町内や鳴子ダムでの祭事など
15. あつまれ鳴子ダムのようす(昨年)
16. 鳴子ダム及び荒雄湖畔公園の利用状況
17. 意見交換会(平成15年度4回開催)のようす
18. 水源地域の課題・ビジョンの策定に向けて

鳴子ダム水源地域ビジョン策定委員会

(第1回)



平成17年1月26日

流域の概要

江合川は、その上流を通称、荒雄川と呼ばれ、その源は荒雄岳（標高984m）に発し、宮城県の穀倉地帯である大崎平野を貫流して旧北上川に合流する。

本地域は、新緑から夏は高原の涼、秋は鳴子峡の紅葉、冬季のスキー、温泉等を含め、年間を通じて楽しめる観光地となっている。

鳴子ダム事業の経緯

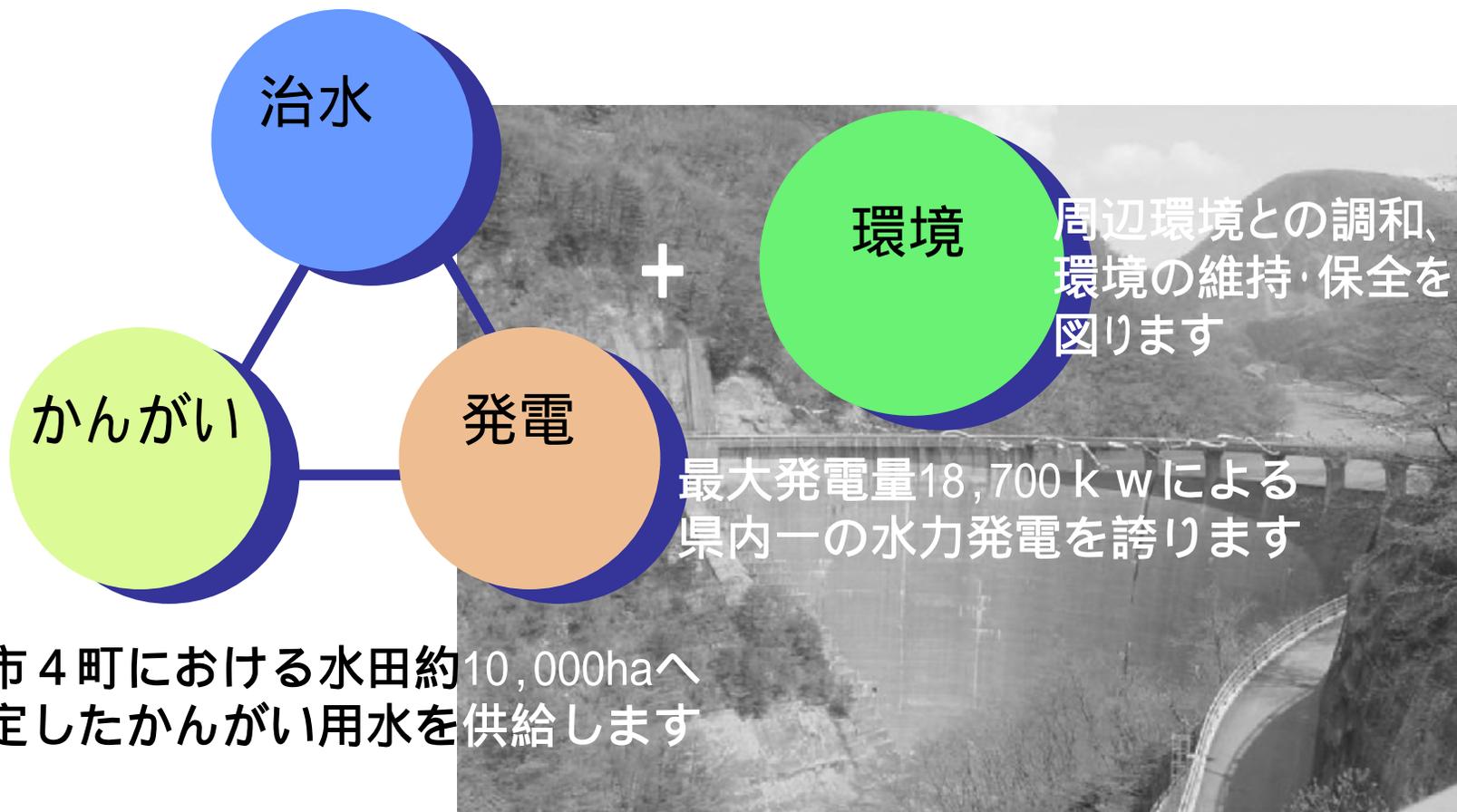
江合川は、大正6年から改修工事に着手したが、昭和22年、23年の相次ぐ台風の襲来により、江合川沿いでは大きな被害を受けたため、昭和26年に鳴子ダムの計画調査は、宮城県から建設省に引き継がれ、治水計画も大幅に見直されることになった。

ダムの建設は昭和27年に着工され、5年の歳月を経て昭和32年10月国内で初めての日本人のみの手で造られたアーチ式コンクリートダムとして完成した。

2. 鳴子ダム沿革

年号		主 な 内 容
1941	昭和16年	宮城県土木部が鳴子ダムの計画を立てる
1947	22	宮城県土木部による予備調査がはじまる。カスリン台風により江合川沿いの町は大被害をうける
1948	23	アイオン台風により、大被害が出る
1949	24	キティ台風でまたもや災害
1950	25	大豪雨で大災害
1951	26	鳴子ダムの調査を建設省が引き継ぎ、実施計画調査が始まる。鳴子地区の地形や地質などの調査をはじめ、いろいろな試験や準備を行う。
1952	27	用地買収を行う。鳴子ダム建設工事スタート。(洪水調節、かんがい、発電の多目的ダムで、しかも、日本人だけによる日本初のアーチダム工事として注目される。)
1953	28	ダム工事用の道路をつくる。ダム本体建設工事・仮設備をつくる
1954	29	基礎掘削が行われる
1955	30	堤体コンクリート打設
1957	32	鳴子ダム完成。4月5日試験湛水を実施
1979	54	ダム周辺環境整備事業に着手した
1980	55	貯水池保全事業として貯砂ダム工事に着手した
1985	60	貯水池保全事業貯砂ダム工事が完了した
1991	平成 3年	ダム周辺環境整備事業が完了した
1996	8	ダム施設改良事業に着手した
2000	12	堤内昇降設備を新設した
2002	14	ダム施設改良事業が完成した
2003	15	取水設備(板見堰)の更新工事に着手した

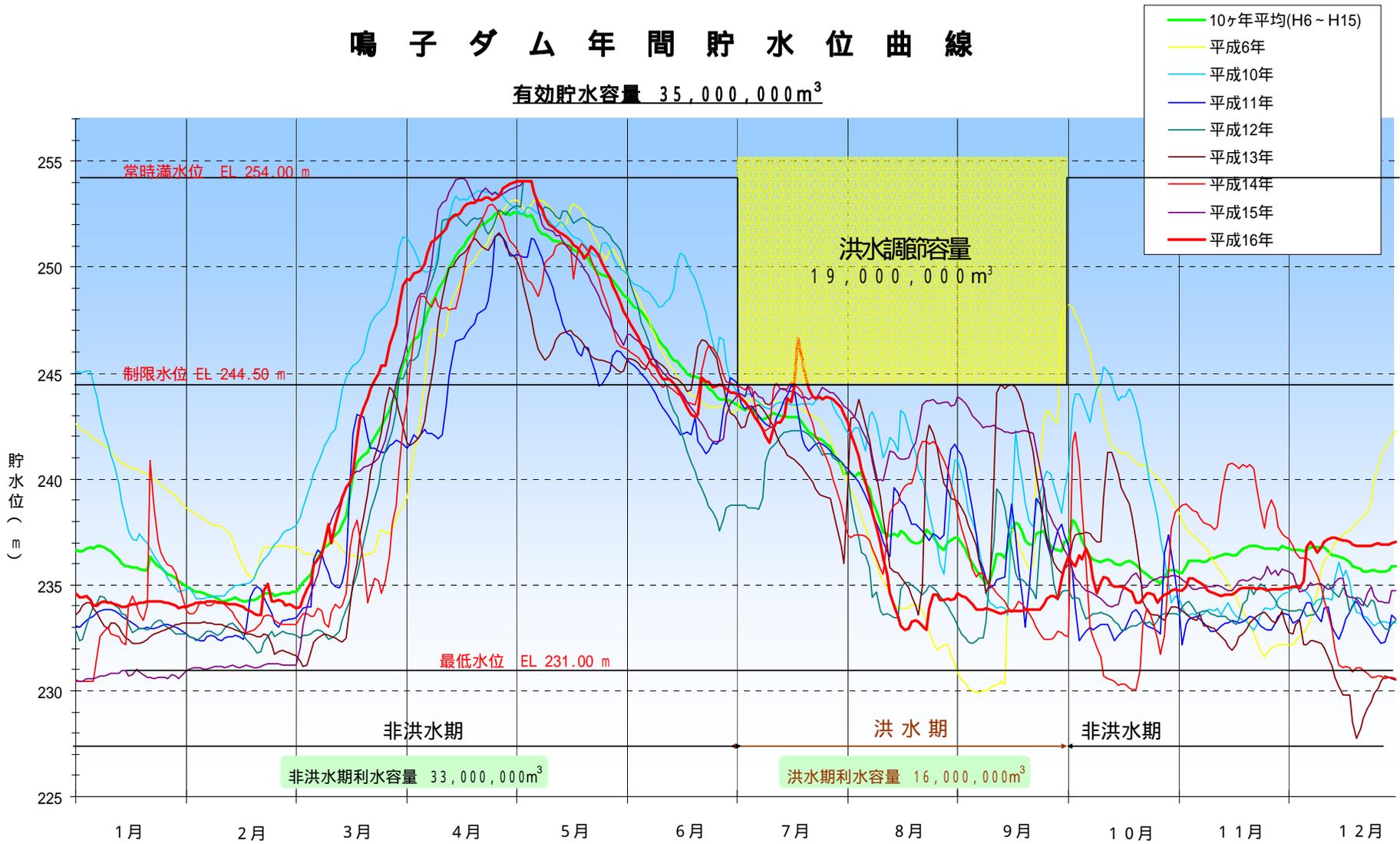
江合川流域における住民の生命・財産を守ります



3. 鳴子ダム役割

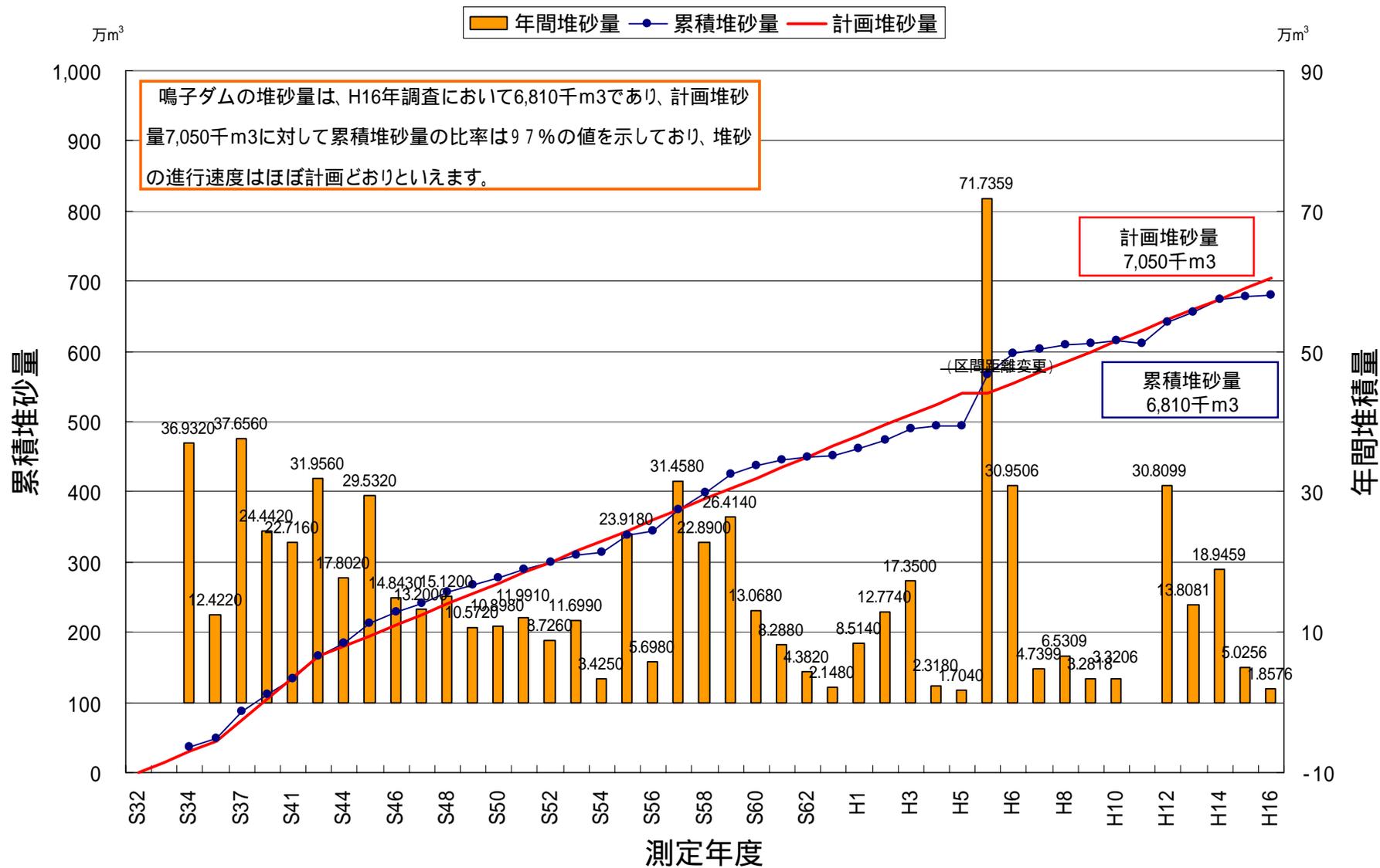
鳴子ダム年間貯水位曲線

有効貯水容量 35,000,000m³



3. 鳴子ダムの役割

堆砂量グラフ



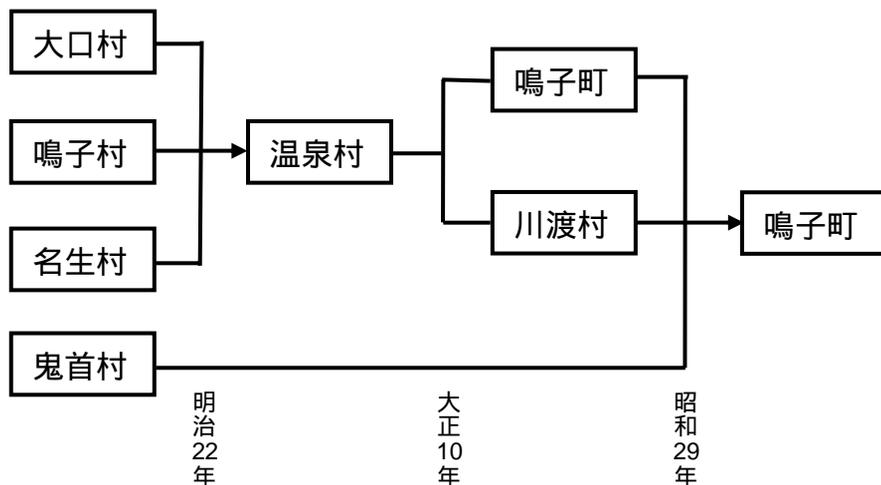
4. 水源地域の鳴子町の概要

1. 鳴子町のおいたち

明治22年(1889年)に「鳴子」「大口」「名生定」の三つの村が合併して「温泉村」となる。

大正10年(1921年)、温泉村が鳴子町と川渡村に分離した。

昭和29年(1954年)、「温泉村」成立から65年後、鳴子町(旧)、川渡村、鬼首村が合併し、現在の鳴子町となる。



栗駒国定公園の広大な森に湧く温泉により、千年もの昔から湯治場として栄えてた。

鳴子、東鳴子、川渡、中山平、鬼首からなる温泉郷は多彩な泉質と豊かな効能により全国的に有名。

町花: リンドウ 町木: ミズキ 町鳥: ヤマドリ
町獣: カモシカ

2. 鳴子町の由来(代表的な説)

(1) 鳴子(なるこ)

承和4(837)年の火山噴火の際、熱湯が噴出し、火山の震動する音に基づいて「鳴声(なるこえ)」と呼んだのが鳴子となった。

源義経の北の方が出産、弁慶がこれを笈(おい)に入れて東に向かったこの地で初めて泣いたので「啼児(なきご)」といい、それが鳴子になった。

(2) 鬼首(おにこうべ)

坂上田村麻呂が蝦夷討伐の際、蝦夷首領大武丸を斬ったとき、その首がこの地に落ちたので鬼首と呼んだ。

鬼首は本来鬼切部(おにきりべ; 当地域の古戦場)と呼ばれていたことから、そのものが訛って「おにこうべ」となった。

(3) 江合川(えあいがわ)

江合川は、昔、玉造川(たまつくりがわ)と呼ばれていたこともあるが、玉造川や荒雄川という名前についての言い伝えはないようである。

江合川は北上川と合流するようになったことから、北上川という大きな川(=「江」)に「合」流する川なので、江合川という名前がついた。

出典)宮城県地名大辞典(角川書店)

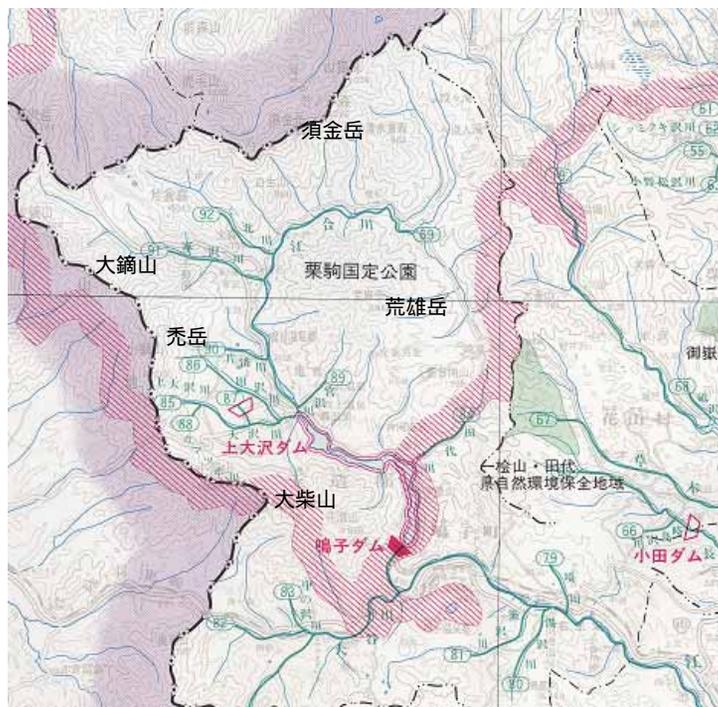
5. 鳴子ダム周辺のカルデラ地形と河川の状況

1. 水源地域の特殊な地形

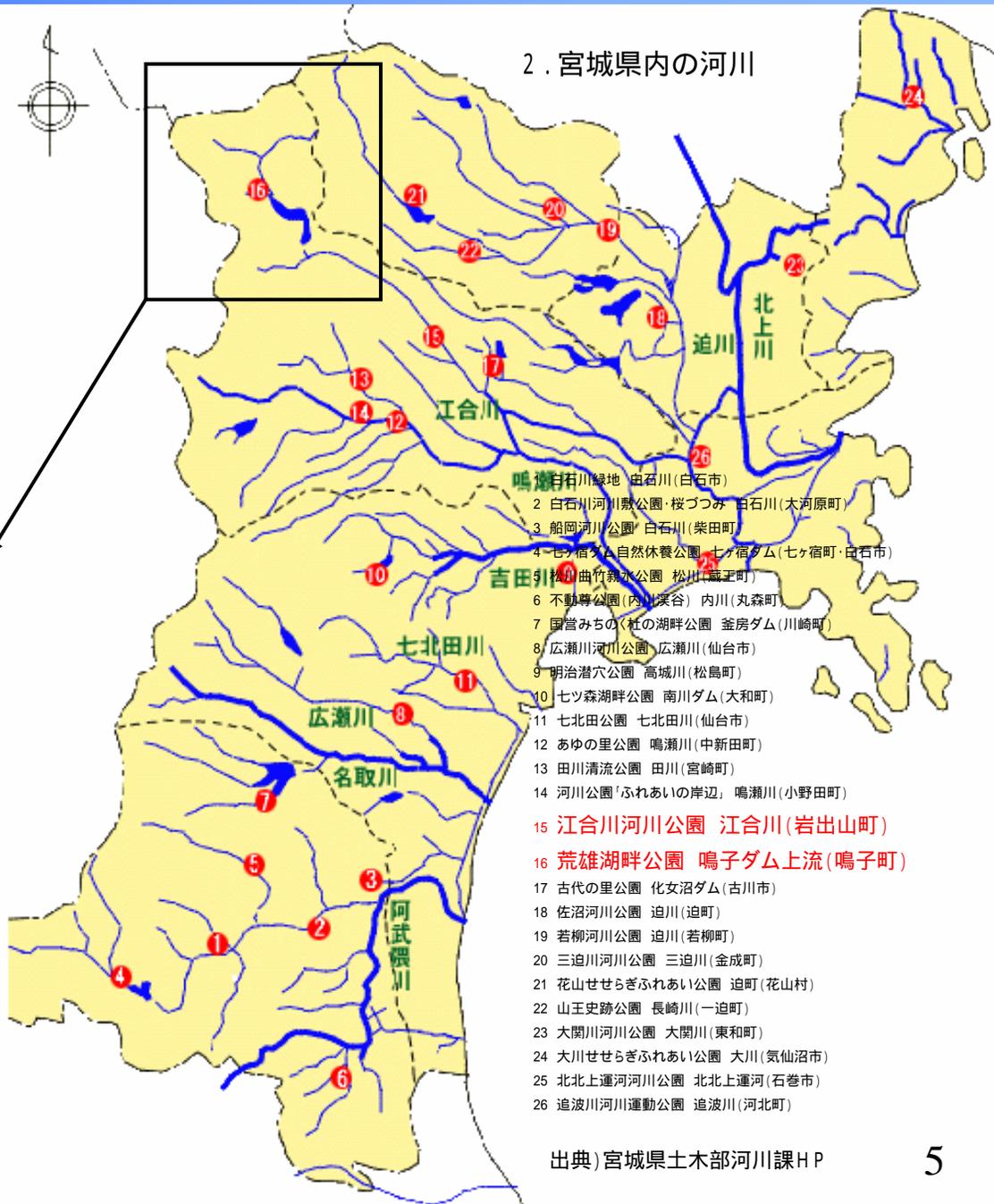
水源地域の地形は鬼首カルデラといわれ、
 荒雄岳 (984m) を中央火口丘として
 須金岳 (1,253m)
 大鎚山 (1,119m)
 禿岳 (1,261m)
 大柴山 (1,083m)

などを外輪山とし、火砕流堆積物から成っている。
 このカルデラ内には片山地熱地帯があり、火山活動の末期的現象が見られる。

江合川は、鬼首カルデラの中央火口丘である荒雄岳の東麓を水源とし、荒雄岳の周囲を逆時計回りに4分の3周した後、南流し、尿前(しとまえ)で大谷川を併せ、東流して大崎平野に入る。



2. 宮城県内の河川



- 2 白石川河川敷公園 桜づつみ 白石川(大河原町)
- 3 船岡河川公園 白石川(柴田町)
- 4 七ヶ宿ダム自然休養公園 七ヶ宿ダム(七ヶ宿町・白石市)
- 5 松川曲竹親水公園 松川(蔵王町)
- 6 不動尊公園(内川溪谷) 内川(丸森町)
- 7 国営みちの(社の湖畔公園 釜房ダム(川崎町)
- 8 広瀬川河川公園 広瀬川(仙台市)
- 9 明治潜穴公園 高城川(松島町)
- 10 七ツ森湖畔公園 南川ダム(大和町)
- 11 七北田公園 七北田川(仙台市)
- 12 あゆの里公園 鳴瀬川(中新田町)
- 13 田川清流公園 田川(宮崎町)
- 14 河川公園「ふれあいの岸辺」 鳴瀬川(小野田町)
- 15 江合川河川公園 江合川(岩出山町)
- 16 荒雄湖畔公園 鳴子ダム上流(鳴子町)
- 17 古代の里公園 化女沼ダム(古川市)
- 18 佐沼河川公園 追川(追町)
- 19 若柳河川公園 追川(若柳町)
- 20 三迫川河川公園 三迫川(金成町)
- 21 花山せせらぎふれあい公園 追川(花山村)
- 22 山王史跡公園 長崎川(一迫町)
- 23 大開川河川公園 大開川(東和町)
- 24 大川せせらぎふれあい公園 大川(気仙沼市)
- 25 北北上運河河川公園 北北上運河(石巻市)
- 26 追波川河川運動公園 追波川(河北町)

出典)宮城県土木部河川課HP

6. 鳴子町や水源地域・江合川流域地域の人口

1. 鳴子町の人口の推移

鳴子町では、昭和60年(11,459人)から平成12年(9,145人)の15年間で人口が約2,300人減少。

その減少率は約20%と、広域大崎圏の中で最も高い減少率を示している。

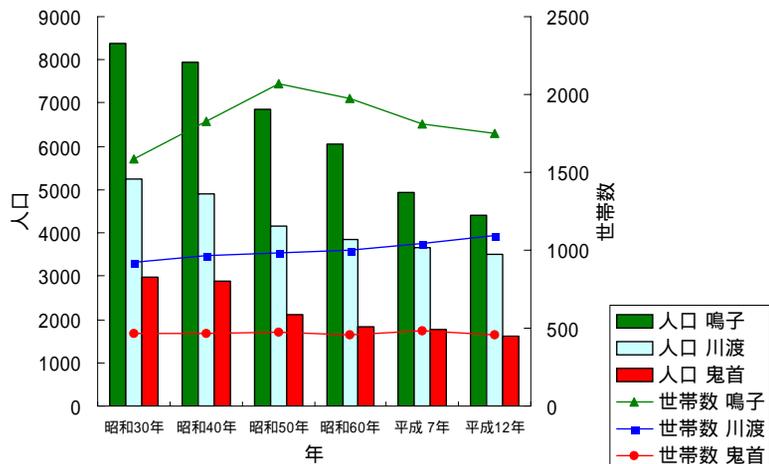
鳴子町を3区分(鳴子地区、鬼首地区川渡地区)した中で比較すれば、水源地である鬼首地区の減少率が高く、過疎の進行が急速に進展している。

2. 江合川流域地域(広域大崎圏)の人口の推移

古川市では人口が増加しているが、他町では減少傾向にある。

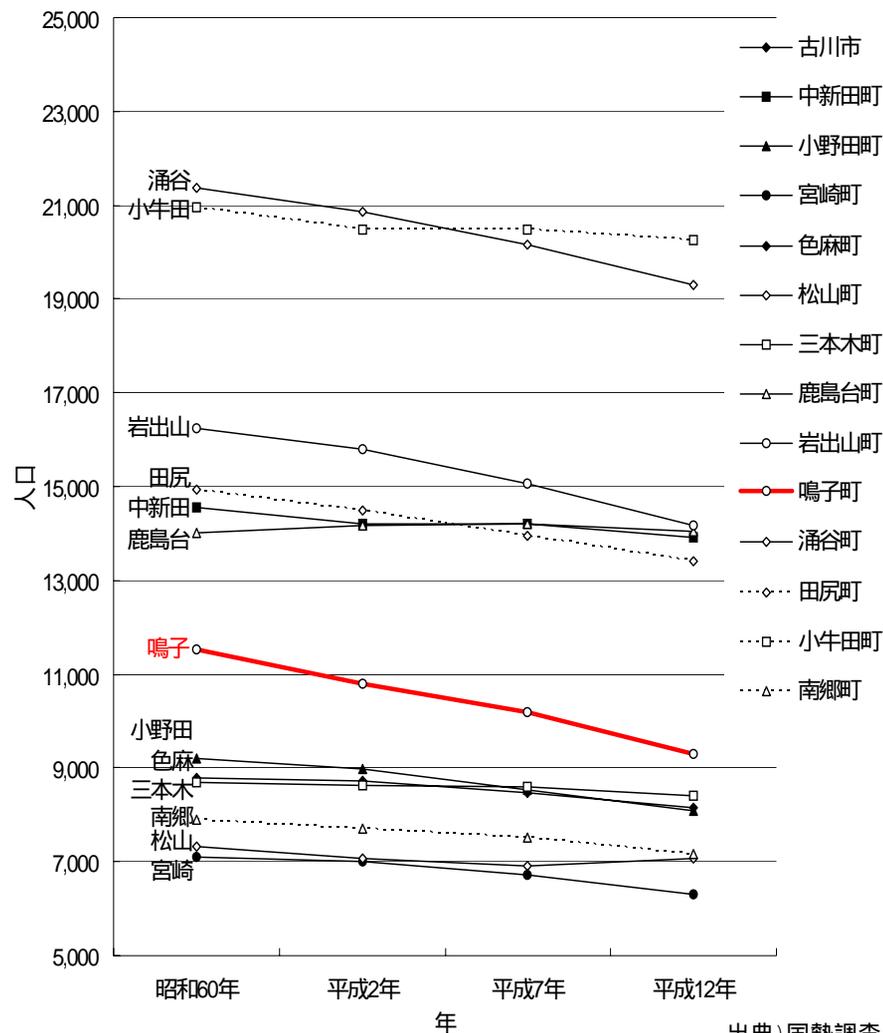
世帯数は旧宮崎町・小野田町、鳴子町以外は増加。

人口・世帯数の推移



出典) 国勢調査

人口の推移(宮城県大崎地方)

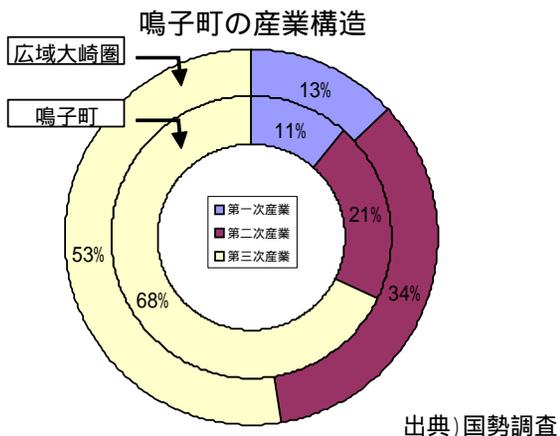


出典) 国勢調査

7. 鳴子町の産業

1. 鳴子町の産業構造

- ・鳴子町の第三次産業比率は68%
- ・広域大崎圏の平均値53%を大きく上回っている
- ・鳴子町の産業が、観光を主体とする産業就業が特化している
- ・観光を主体とする産業の維持及び発展が鳴子町の産業振興にとって大きな課題

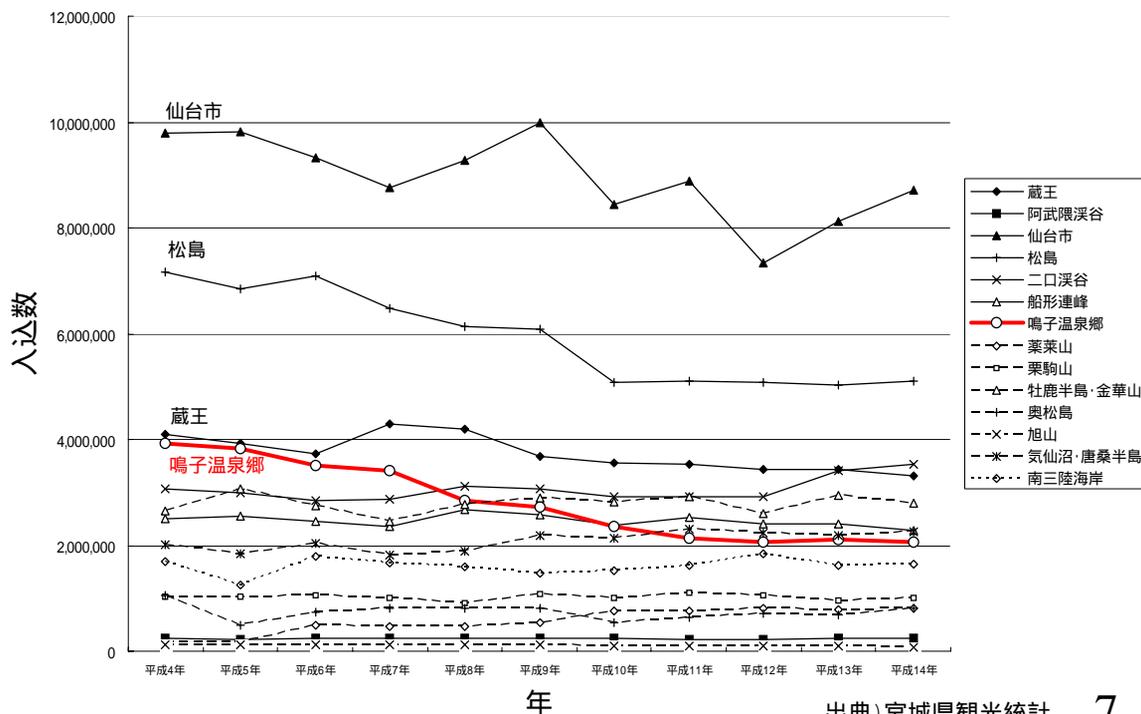


鳴子町の特産品
鳴子こけし / 鳴子漆器 / 乗だんご

2. 鳴子町及び宮城県内の観光の状況

- (1) 増加傾向の観光地: 阿武隈渓谷、二口渓谷、葉菜山、牡鹿半島・金華山、気仙沼・唐桑半島
- (2) 鳴子温泉郷
 - ・平成14年と平成4年の比で52.4%と激減傾向
 - ・観光資源の発掘
 - ・積極的なPR活動
 - ・新たな観光動態 などに取り組んでいる

宮城県内観光客入込数の推移



8. 鳴子町の観光資源



1. 湯沼
2. 間歇泉
3. 鳴子峡
4. 片山地獄
5. 荒雄岳
6. 鍛冶谷沢の桜
7. 鳴子温泉神社祭と荒雄川神社祭
8. 奥の細道
9. 鳴子温泉郷
10. 上野々スキー場
11. オニコウベスキー場
12. 日本こけし館(全国こけし祭り)
13. 鳴子牛のCOWニバル
14. 鳴子ダム
15. 寒風沢の公園
16. 鬼首スキー場レキヤン山頂駅
17. 花立峠
18. 国見峠
19. 国道47号沿いのドライブイン
20. 国道47号尿前付近
21. 国道108号中屋敷付近
22. 国道108号田野付近
23. 鳴子カントリークラブハウス付近
24. 鳳鳴平別荘地
25. 吹上高原キャンプ場
26. 鬼首ペンション村
27. 禿高原町営牧場
28. 上原町営牧場

出典) 鳴子町観光協会

9. 鳴子町と他市町との関係など

1. 鳴子町と他市町とのつながり

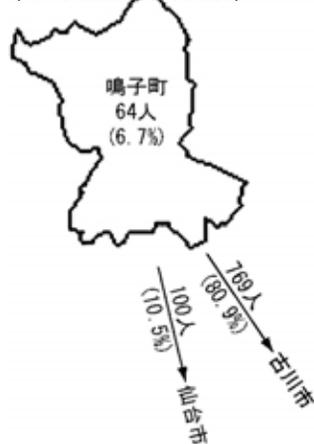
各指標ともに古川市や近隣町である岩出山町とのつながりが強い。

隣県の山形県最上町とのつながりもみられる。

通勤・通学先



買回品購入先 (衣料品・文化品)



通院先



自動車のながれ

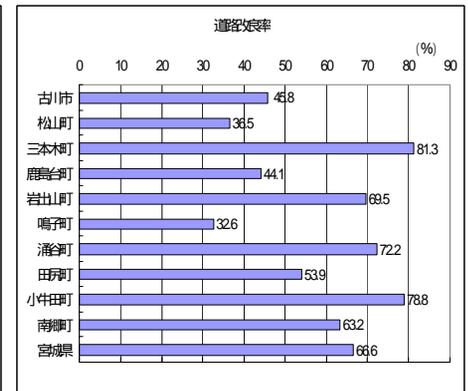
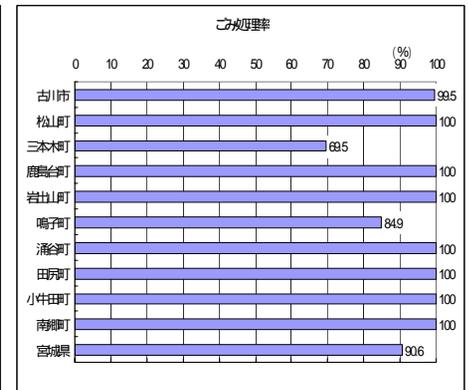
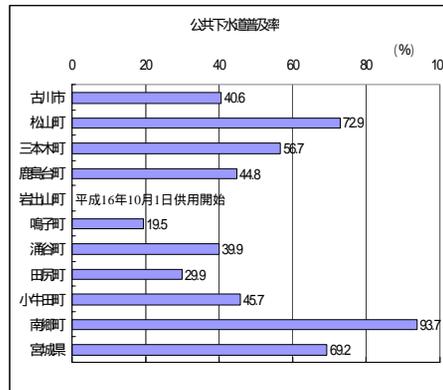


2. 各種基盤整備の状況

鳴子町のインフラ整備状況は総じて低くなっている。

鳴子町の公共下水道の普及率は低い。

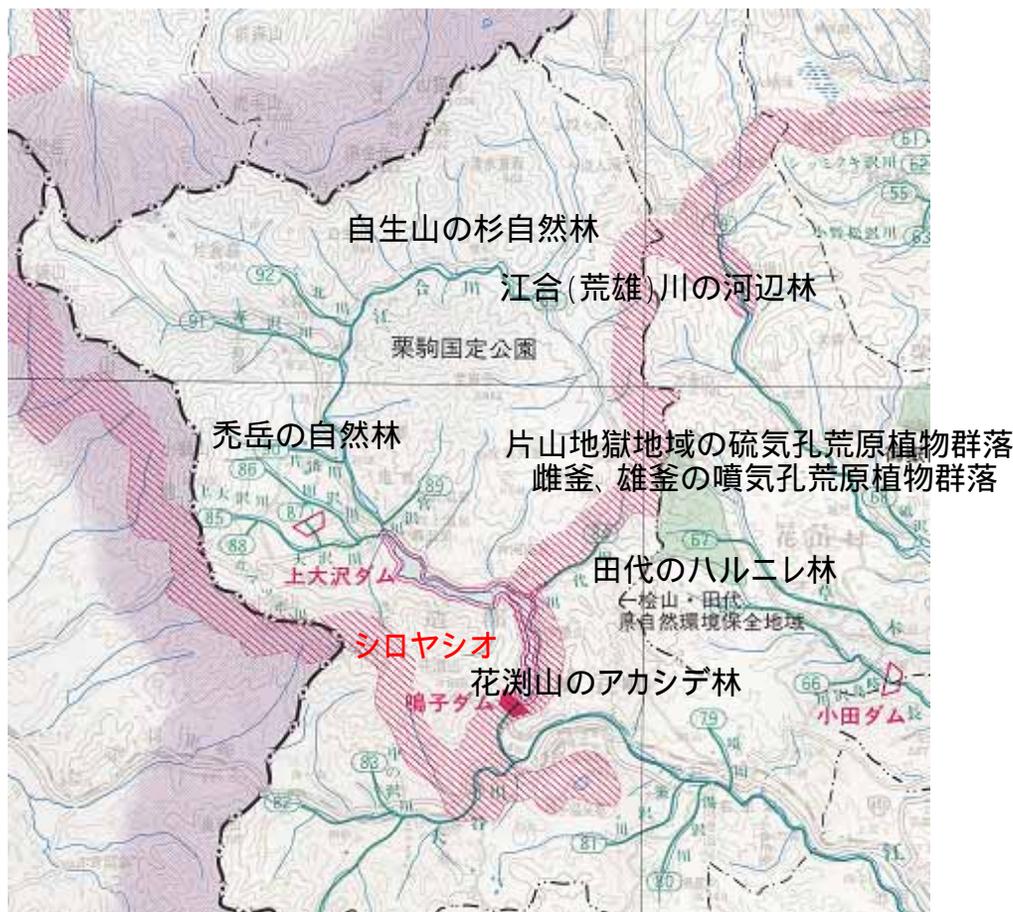
鳴子町の道路改良率も低位にあり、国道108号バイパス(湖西道路)等の整備が必要。



出典左) 国勢調査(平成12年)
宮城県の商圏消費購買動向調査(平成15年)
宮城県地域保健計画(平成13年)
東北地方O D調査集計表:国土交通省(平成11年)

出典右) 宮城県市町村概要(平成15年度)
公共下水道普及率の宮城県平均値は、平成15年版宮城県統計年鑑
道路改良率の宮城県平均値は、平成15年度みやぎの道路

10. 鳴子ダム水源地域周辺のすぐれた自然・植物



水源地域の貴重な植物群落(日本の貴重な植物群落:環境省
:シロヤシオは除く)

鳴子ダムの右岸は、母岩が露出する高さ300m~400mの急峻な斜面になっている。この斜面はアカシデを主とし、コナラ、ケヤキが混生する林に覆われている。



ヤマツツジ

ツツジ科。日当たりのよい山野に普通な半落葉低木。高さは1～3 m。5～6月頃、枝先に赤色の花をつける。花冠は径3～4 cm。



カタクリ

ユリ科。早春、木の葉が広がる前、紅紫色の花を咲かせる。高さは15cm位。花の径は4～5 cm。花被片を反り返らせて咲く。



ニリンソウ

キンボウゲ科。高さ15cm位、群がって生えることが多いが単独で生えることもある。春、花柄を2本出し、径1.5～2.5cmの白い花をつける。花びらに見えるがくは5枚。



キクザキイチゲ

キンボウゲ科。和名は花が菊に似ることによるため、菊咲一花草。春、落葉広葉樹の林の下に咲く。直径約3 cmの淡紫色～白色の花を1つつける。



ヤマユリ

ユリ科。草地や林縁に普通。高さ1～1.5m。花の径は20～25cm。夏、大きな白い花は、法面や疎開した森林でとくに目立つ。



タニウツギ

スイカズラ科。日当たりのよい山野に普通な落葉低木。おもに日本海側に分布する。高さは2～5 m。花は初夏、淡紅色。



ウワミズザクラ

バラ科。山野に普通な落葉高木。高さは15m位。花は5月頃、葉が出てから総状花序に咲く。花弁は白色。果実は秋に黒く熟す。



マルバマンサク

マンサク科。山地に生息する落葉小高木。おもに日本海側に分布する。早春、葉に先だてて咲く。花びらが黄色で線形。



エゾタンポポ

キク科。日本在来のタンポポのひとつ。都市化に弱く、昔ながらの環境が残っているところに見られる。総苞片が反り返らない。



ヤマボウシ

ミズキ科。山野に普通な落葉小高木。高さは5～10m。花は初夏、白い4枚の総苞片が花弁のように見える。

11. 鳴子ダム水源地域周辺の貴重な動物

1. 鳴子ダム水辺の国勢調査による生態系調査(平成5年度～)

調査項目	巡回年	確認種数	確認特定種
魚介類	平成5年 ～8年度	19種	未確認
	平成9年度 ～14年度	19種	スナヤツメ
底生動物	平成5年 ～8年度	122種	トウカケケラ
	平成9年度 ～14年度	194種	
動植物 プランクトン	平成5年 ～8年度	105種	
	平成9年度 ～14年度	調査中	
植物	平成5年 ～8年度	535種	フクジュソウ、マルバキンレイカ、スハマソウ
	平成9年度 ～14年度	640種	フクジュソウ、マルバキンレイカ、オヤリハクマ
鳥類	平成5年 ～8年度	67種	オシドリ、オオタカ、ハイタカ、クマタカ、ヤマセミ、カワセミ
	平成9年度 ～14年度	96種	オシドリ、オオタカ、クマタカ、ヤマセミ、カワセミ、ミサコ、オジロワシ、イヌワシ、ハチクマ、ノジコ
両生類 昆虫類 哺乳類	平成5年 ～8年度	両生類13種 爬虫類7種 哺乳類19種	トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、タコガエル、モリアオガエル、カシカガエル、ニホンカモシカ
	平成9年度 ～14年度	両生類13種 爬虫類7種 哺乳類16種	トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、タコガエル、モリアオガエル、カシカガエル、ニホンカモシカ、ヤマコウモリ
陸上昆虫類	平成5年 ～8年度	417種	ツノトンボ
	平成9年度 ～14年度	1,439種	カラスシジミ、ゴマダラチビゲンゴロウ、タカネトンボ、キンイチモンキセセリ、スジクロチャバネセセリ、ヤマトカマフカムシ

2. 動物の生息状況(希少種:宮城県レッドデータブック)

魚介類(スナヤツメ)

鳥類(オオタカ、ハイタカ、クマタカ)

両生類・爬虫類・哺乳類(トウホクサンショウウオ、
クロサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ニホンカモシカ)

陸上昆虫類(ツノトンボ)



クマタカ



クロサンショウウオ



ニホンカモシカ



ウソ

アトリ科。全長約 15.5cm。くちばしは、短く太い。雄は頭頂が黒くほおからのどにかけて鮮やかな紅色をしている。亜高山帯で繁殖し、冬には里に下りてくる。



アオサギ

サギ科。全長約 95cm。日本のサギ類で最も大型。川、湖・沼、水田、湿地など水辺に見られる。全体が灰色。動きはゆっくりしている。



アカゲラ

キツツキ科。全長約 24cm。頭部と背中全体が黒い。雄は後頭部が赤色。各地の山林に普通に棲息。おもに樹上で昆虫を採食。



オシドリ

カモ科。全長約 45cm。雄はだいたい色の美しい羽毛をもつ中型のカモ。雌は灰褐色で地味。おもに山間の水辺の木陰を好む。



カワガラス

カワガラス科。全長約 22cm。全身チョコレート色。山間の溪流に棲息。川沿いに直線的に飛ぶ。水に潜って水生昆虫を食べる。



カワセミ

カワセミ科。全長約 17cm。長い嘴、コバルト色の上面、橙色の下面が特徴。採餌行動はヤマセミに似るが、水生昆虫なども食べる。



コゲラ

キツツキ科。全長約 15cm。上面は黒褐色で背と翼に白色の斑点がある。キツツキの仲間中最も小さい。冬にカラ類と一緒に移動しているのが見られる。



ヤマセミ

カワセミ科。全長約 38cm。白黒の斑模様の特徴。おもに山間の溪流や湖沼に棲息。魚食性。急角度で水中に飛び込み魚を捕まえる。



マガモ

カモ科。全長約 59cm。宮城県ではよく見られオナガガモに次いで数が多い。雄はくちばしが黄色で頭部は光沢のある緑色。雌のくちばしは赤褐色で黒い斑点がある。



ヤマガラ

シジュウカラ科。全長約 14.5cm。頭部は黒く、額とほお、後頭部に淡黄色がある。冬には、平地の林で、他のカラ類と群をつくり一緒に行動、採餌する。

12. 鳴子町の最近のうごきや地域活動(1)

まちおこし活動	主催	開催時期	概要
鬼首神楽特別公演	鬼首神楽保存会	7/18	源氏と平家の「一ノ谷合戦」をテーマに、3時間半の上演会
やまが旬の市	鬼首農林産物直売所 「やまが旬の市」	5/29～11/7 毎週土日	地場産の野菜や加工品販売
鬼楽里 ふるさと体験	鬼首農地開発 農業振興組合	年3回程度	8/21:とうもろこしもぎ取りハフハフ体験&山里の暮らし体験 9/16:りんどう切り花体験&山里の暮らし体験
中山平 日曜山村学校	日曜山村学校	4月～11月 毎月2回	無農薬による米づくり、野菜づくり体験
ブルーベリー摘み取り農園	鳴子町ブルーベリー 生産加工組合	7/10～8/22 9:00～16:00	鳴子町内8ヶ所のブルーベリー園にての摘み取り体験、ジャムづくり体験
キャッチ&リリース	鳴子漁業協同組合	解禁日内	江合(荒雄)川本流のキャッチ&リリース区間におけるイワナ、ヤマメ、ニジマス釣り
イベント列車 SL義経号	JR東日本仙台支社	9/18～9/20	陸羽東線 新庄～小牛田間をイベント列車「SL義経号」の運行
鳴子温泉郷 湯めぐり手形	町内5地区の 温泉組合	通年	東鳴子、鳴子、川渡、鬼首、中山平の5温泉における割引手形
街を歩けば下駄も鳴子	街を歩けば下駄も鳴子 実行委員会	通年	カラコロまっぴ協賛店における各種サービス
てっぺクラブのほっとフェア	鳴子温泉 でっぺクラブ	年1回	鳴子町温泉街(商店街)における一店逸品運動フェア
東鳴子温泉 現代版湯治入門	東鳴子夢会議	通年	各種ワークショップの開催
温泉療養プラン	鳴子町観光協会 温泉療養部	通年	各種生活習慣病の症状にあった適切な温泉療養やりハビリ指導
鳴子ツーリズム研究会		通年	鳴子ツーリズム講座(講演会)の開催
「構造改革特区」の認定		6/21	農地所有者による市民農園の開設 農地取得下限面積の引き下げ 特定農業者による濁酒の製造許可者の製造数量緩和

12. 鳴子町の最近のうごきや地域活動(2)



鬼首神楽特別講



鬼楽里 ふるさと体験



鬼楽里 ふるさと体験



日曜山村学校



日曜山村学校



ブルーベリー摘み



キャッチ&リリース



東鳴子温泉



川渡温泉



下駄も鳴子



でっペクラブ



現代版湯治入門
(縁台ワークショップ)



鬼首温泉



鳴子温泉



中山平温泉



S1 義経号



温泉療養プラン



やまが旬の市



現代版湯治入門
(光の盆)

12. 鳴子町の最近のうごきや地域活動(3)

構造改革特区「鳴子温泉郷ツーリズム特区」
内閣府が認定(平成16年6月21日)

1. 農地所有者による市民農園の開設
町と協定を結ぶだけで、農家自らが市民農園を実施することができます。
2. 農地取得下限面積の引き下げ
一般の方が農業を始めるには、農地法のしほりにより50a以上でないと農地を取得できないこととなっていますが、その面積要件が10aまで引き下がります。一般の方が10aから農地を取得し、農家になることが可能となります。
3. 特定農業者による濁酒の製造許可者の製造数量緩和
農家レストラン等飲食店営業を併せ営む稲作農家、自ら生産した米を原料に濁酒(どぶろく)製造の免許を取得する際、製造数量に制限がなくなります。



第2回全国グリーン・ツーリズムネットワーク みやぎ鳴子大会
(平成16年11月21日～22日)

- 分科会、交流会、全体パネルディスカッションの開催(全国から600人参加)
- 第1分科会 食文化 ～火を遊ぶ～ 民族研究家 結城登美雄氏
 - 第2分科会 連携 ～火をつなぐ～ 宮城大学事業構想学部助教授 宮原育子氏
 - 第3分科会 コミュニティの再生 ～火を育む～
まちむら交流きこう「びれっじ」編集長 永田麻美氏
 - 第4分科会 行政支援 ～火を灯す～ 遠野市総合産業振興センター所長 菊池新一氏
 - 第5分科会 デザイン ～火を魅せる～ ブランナー 麦屋弥生氏
 - 第6分科会 ツーリズムの質の向上 ～火を守る～
NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク事務局長 徳吉英一郎氏
 - 第7分科会 とことん鳴子 ～火を活かす～ (株)東北地域研究室代表 志賀秀一氏

第2回全国グリーン・ツーリズムネットワーク
みやぎ鳴子大会

「あだらん」とは?
古風な湯は湯に
あだらんとは、
湯に火をつけて
あだらんとして
使われます。

旅は火
あだらん

主催/第2回全国グリーン・ツーリズムネットワークみやぎ鳴子大会実行委員会
宮城県・鳴子町

参加者募集中!

会場/宮城県鳴子町
開催日/平成16年11月21日(日)～22日(月)
<http://www.town.naruko.miyagi.jp/tourism/gtnetwork/>

13. 鳴子ダム水源地域のさまざまな資源

自然系資源

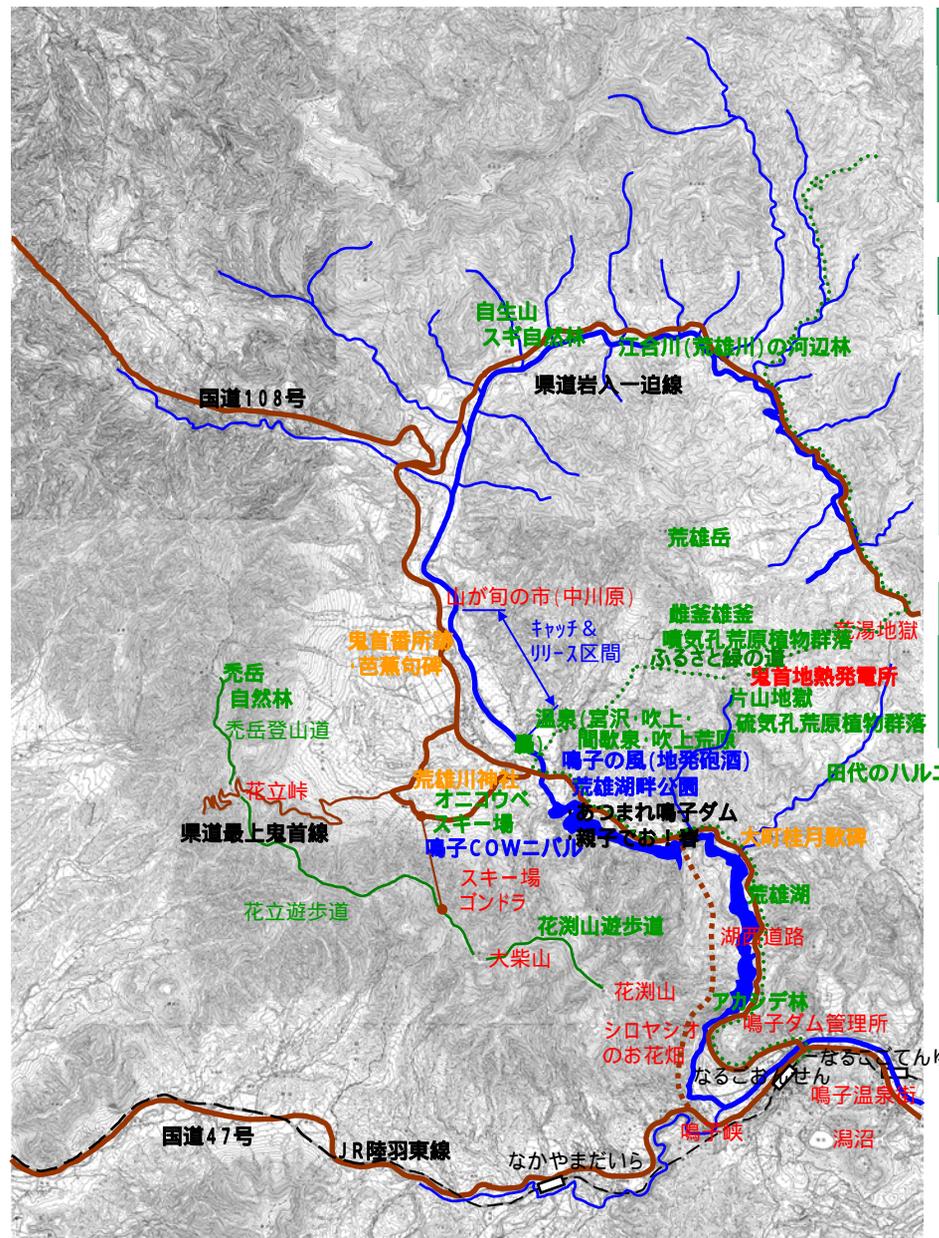
自生山及び天然杉・巨木の森
 花淵山及び遊歩道・お花畑(シロヤシオなど)
 荒雄岳(ユニトロイデ火山)及び外輪地形
 鬼首地熱発電所、片山地獄及び周辺の特異植生
 間歇泉・吹上高原
 温泉(宮沢・吹上・轟)
 オニコウベスキー場・ゴンドラ・ゴルフ場
 荒雄湖(ダム湖)
 ふるさと緑の道(鳴子温泉～荒雄湖～鬼首)
 ふるさと緑の道(鬼首～荒湯地獄～鎌内)
 貴重な植物群落
 ・花淵山のアカシデ林(鳴子ダムサイト下右岸)
 ・自生山のスギ自然林
 ・江合川(荒雄川)の河辺林
 ・田代のハルニレ林
 ・片山地獄地域の硫気孔荒原植物群落
 ・雌釜、雄釜の噴気孔荒原植物群落
 ・禿岳の自然林

人文系資源

荒雄川神社・主馬神社
 鬼首番所跡・芭蕉句碑・大町桂月歌碑

社会系資源

荒雄湖畔公園
 あつまれ鳴子ダム・親子でお！春
 鳴子牛COWニバル
 鳴子の風(地発泡酒)



ビューポイント

鳴子ダム及び展望台
 花立峠
 禿高原町営牧場
 県道岩入一迫線、田代川沿いの景観

地域での活動

鬼首の里高原市場
 農業体験「鬼首・鬼楽里」
 鳴子未来創造会議
 江合川(荒雄川)の水質調査
 キャッチアンドリリース区間の設定・発
 眼卵放流
 下流ライオンズクラブとの交流

地域の食

鬼首の湧水
 鳴子の風(地発泡酒)
 岩魚・山女など

地域の交通

JR陸羽東線
 (鳴子温泉駅、鳴子御殿湯駅)
 国道108号、県道最上鬼首線、吹上
 鬼首線、岩入一迫線、沼倉鳴子線
 鳴子町営バス

14. 鳴子町内や鳴子ダムでの祭事など

鳴子町内の祭事

名称	日時	主な内容
全国こけし祭り	9月第1金、土、日曜日	入込み数は、約25千人
温泉神社祭典	9月第1土、日曜日	全国こけし祭りと連動
温泉石神社祭典	9月15日	温泉石神社は鳴子地区と川渡地区にある
荒雄川神社祭典	9月9日～10日	
鳴子牛COWニバル	7月23日(昨年)	入込み数は約5千人
おんせん朝市	4月、5月、11月	

鳴子ダムの催事

名称	日時	主な内容
森と湖に親しむ旬間	平成8年～平成10年 いずれも7月下旬	鳴子町の近隣町及び鳴子町内の小学生(保護者) ダム管理所見学、湖水クルージング、ダム深層体験、荒雄湖畔公園での森林教室、魚つかみどり、記念植樹等
親子で鳴子・お！春	平成8年～平成11年 いずれも5月下旬	湖水クルージング、荒雄湖畔公園での親子ふれあいコンサート、イワナのつかみどり等。漁協まつりや出店、野点
河川愛護月間「川の日」荒雄湖畔公園清掃活動	平成8年～平成10年 いずれも7月上旬	ボーイスカウト鳴子第一団、鳴子町、鳴子観光協会、鳴子漁業協同組合、鳴子ダム管理所により荒雄湖畔公園の清掃
あつまれ！鳴子ダム	平成12年～ いずれも7月下旬	鳴子町内の小学生(保護者) 自生山での森林教室、荒雄湖畔公園でのカヌー教室、水質検査・水生生物調査、草木染め、湖上クルージング等

15. あつまれ鳴子ダムのように(昨年)

開会式



イワナのつかみどり



ダム見学



自生山での森林教室



農産物の直売



開催:平成16年7月31日(土)
場所:荒雄湖畔公園他

16. 鳴子ダム及び荒雄湖畔公園の利用状況(1)

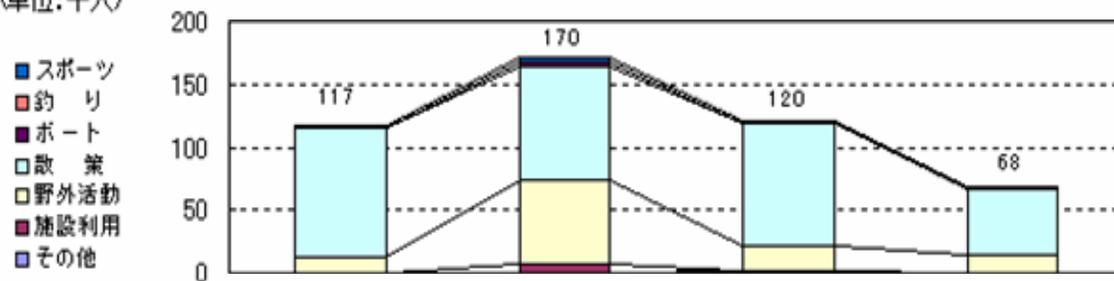
【鳴子ダム湖利用実態調査結果】

平成6年度～平成15年度までの利用状況をみると、

- ・平成9年度の利用者が170千人と最も多いが、この年度をピークに下降傾向にある。
- ・「散策」が約8割を占めており、ダム湖上流端の荒雄湖畔公園周辺、及びダム本体周辺の利用が多い。
- ・「野外活動」が約2割を占めており、同じく荒雄湖畔公園のキャンプ場やスポーツ施設等の利用が多い。
- ・過去4回の調査結果を見ると、各年度とも大半が散策での利用となっている。

		平成6年度	平成9年度	平成12年度	平成15年度
利 用 形 態 別	スポーツ	1 (0.7%)	3 (1.7%)	1 (1.1%)	0.8 (1.2%)
	釣り	0.1 (0.1%)	0.1 (0.1%)	0.4 (0.3%)	0 (0.0%)
	ボート	0 (0.0%)	3 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	散策	104 (89.4%)	91 (53.7%)	97 (80.2%)	54 (78.4%)
	その他	12 (9.8%)	73 (42.7%)	22 (18.3%)	14 (20.4%)
	野外	12 (9.8%)	66 (38.7%)	21 (17.2%)	14 (20.3%)
	施設	0 (0.0%)	7 (3.9%)	0.2 (0.2%)	0 (0.0%)
	その他	0 (0.0%)	0.2 (0.1%)	1 (1.0%)	0.1 (0.1%)

(単位:千人)



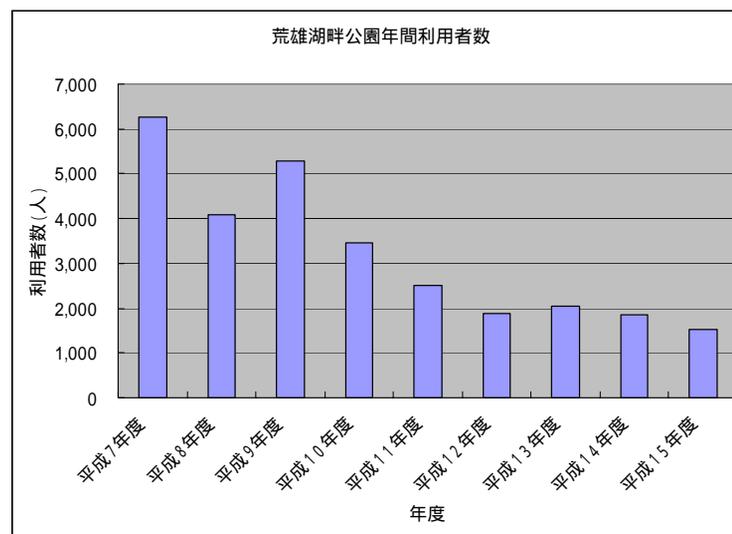
場 利 用 別	湖 面	0.1 (0.1%)	0.1 (0.1%)	0.4 (0.3%)	0 (0.0%)
	湖 畔	38 (32.8%)	120 (70.5%)	59 (48.7)	34 (49.4%)
	ダ ム	79 (67.1%)	50 (29.4%)	61 (51.0%)	35 (50.6%)
	合 計	117	170	120	68

16. 鳴子ダム及び荒雄湖畔公園の利用状況(2)

【荒雄湖畔公園の利用状況】

平成7年度～平成15年度までの利用状況を見ると、

- ・平成7年度の開設時には約6,300人の利用があったが、年々減少傾向にある。
- ・公園の利用者の大半は、日帰りのデーキャンプを含めたキャンプ場としての利用が多い。



17. 意見交換会(平成15年度4回開催)のようす

平成15年度では、水源地域で地域活動を行っている方々を中心に意見交換会を開催しました。

参加したみなさんから、さまざまな意見をお伺いしました。

意見交換会の概要

	日時	場所	開催内容
第1回	平成15年 11月7日 (金)	鬼首公民館	水源地域の現状について意見交換
第2回	平成15年 12月15日 (月)	現場見学 鳴子ダム管理所	鳴子ダム管理所、荒雄湖畔公園の見学 他ダムの事例 ビジョンのあり方などを意見交換
第3回	平成16年 1月26日 (月)	鳴子ダム管理所	各自レポートを発表 水源地域や流域の資源の整理
第4回	平成16年 2月26日 (木)	鳴子ダム管理所	水源地域での諸活動を紹介 地域が取り組むべき方向性を検討



18. 水源地域の課題・ビジョンの策定に向けて(1)

1. 水源地域の課題

項目	課題等
1. 水源地域の活性化	・水源地域の過疎化や少子高齢化の進展
2. ダム湖畔の少ない親水空間	・湖面と触れ合うことのできる親水空間が少ない
3. 国道108号バイパス整備後の対応	・現国道108号の交通量が減少し、ダム観光への入込み数の減少が懸念 ・荒雄湖畔公園の拠点性は現在よりも高まる
4. 荒雄湖畔公園の活性化	・5月の連休でも日入込みが3,000人程度 ・利用者数は減少傾向を示し、野球場やステージ利用回数は年間を通して数回程度 ・利用料金は非常に低額。施設の健全運営には至っていない ・キャッチアンドリリースによる「釣り」の新たな形態を展開し、江合川での釣りの魅力を情報発信

2. いかしたいことから

項目	課題等
1. 地域特性の反映	豊かな自然環境(自生山や自然杉、花瀧山やシロヤシオ、カルデラ地形、間歇泉、片山地獄、雄釜、雌釜等の温泉湧出、地熱発電所)
2. ダムをとりまく環境の向上	ダムの水位低下による湖岸崖地の裸地化 「すだれ放流」の恒常的な開催の取り組み
3. イベントの開催	イベント活動の定着化による交流人口の増加 陸羽東線を利用したパッケージ化などの検討
4. 荒雄湖畔公園の利活用	荒雄湖畔公園の魅力付けによる利活用の促進
5. 環境学習のフィールドとして利用	水源地と米どころの関係から、水と農地や水の循環などをテーマとした学習交流
6. ダムの役割を再認識	ダムの仕組みや役割についての学習機会

1. 鬼首地域の過疎化の歯止め

1. 減少傾向にある人口・世帯、観光入り込みへの対応
2. 市町村合併により「大崎市」となった場合の鬼首地域の将来像(ランドデザイン)
3. 市町村合併により統廃合される教育施設(鬼首中学校)の今後のあり方

2. 地域活動や情報の集約

1. 多数の団体がそれぞれ活動しており、活動主体を組織化する

3. 水源地域の景観や水との親しみ

1. 河川改修により親水できない
2. 荒雄湖畔公園の親水ゾーンの創出

4. 地域の人々が地域をよく知る

1. 既存のさまざまな資源を知る
2. それをどうPRするか
3. 観光資源として、どうやって見に来てもらうか
4. 先ずは「あるもの」からはじめる